

サイオスグループ DX戦略

サイオス株式会社
サイオステクノロジー株式会社
2023年12月18日



目次

1. サイオスグループ体制図
2. サイオスグループのDXビジョン
3. ビジョン実現のためのDX戦略
4. DX推進体制
5. 人材の確保および育成
6. DXへの投資の強化およびデジタル活用環境の整備
7. DXの進捗を測る指標
8. サイバーセキュリティ

1. サイオスグループ体制図

サイオスグループ体制図

サイオスグループは、親会社であるサイオス株式会社がグループ全体の方針を決定し、子会社と一体となって各種施策を実行できる持株会社体制を採用しています。

サイオス株式会社

テクノロジー企業を子会社に持つ
東証スタンダード上場の持株会社



サイオステクノロジー株式会社

OSSを活用したSI*を原点とし、
自社ソフトウェアやSaaS*製品を
提供している国内の子会社

SIOS Technology Corp.

米国カリフォルニア州に本部を
置き、米国および欧州を中心に
事業展開している子会社

2. サイオスグループの DXビジョン

サイオスグループは「世界中の人々のために、不可能を可能に。」をミッションと定め、イノベーションによって人々の課題を解決し、より良い社会の実現に貢献することを目指しています。

サイオスグループが考える「より良い社会」とは、以下の3つの姿を指しています。

- **創造性あふれる社会**

テクノロジーが持つ無限の可能性により、人々をよりクリエイティブに。

- **心豊かな社会**

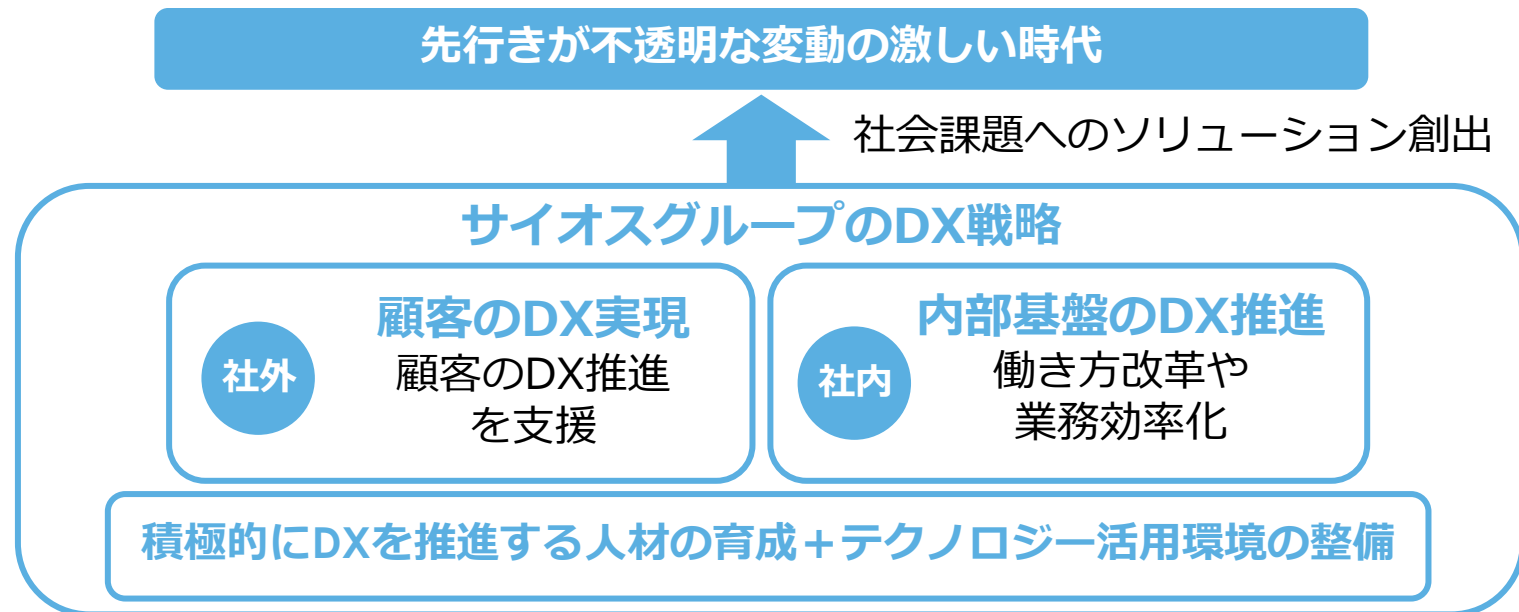
楽しく学び、自分らしく働ける機会を。不安や心配を無くして心と体に健康を。

- **持続可能な社会**

安全で安心できる暮らしを。効率的で賢い資源の利用を。生き活きとした地域社会の創生を。

3. ビジヨン実現のための DX戦略

DXビジョンを実現するためには、テクノロジーを最大限に活用し、サイオスグループの製品・サービスや企業文化を変革することで、社会課題の解決につなげていく必要があります。イノベーションを実現する手段として、顧客のDX推進を支援する「顧客のDX実現」と、グループ内を変革する「内部基盤のDX推進」の両輪で、サイオスグループのDXを推進します。



従来から、サイオスグループでは顧客の抱える課題を解決すべくSIやソフトウェア製品を提供してきました。近年では、DXの必要性が高まっていることを受け、サイオス株式会社の方針に基づき、サイオステクノロジー株式会社のSaaSによるソリューションを拡充しています。今後も、テクノロジーを最大限活用し、顧客のDX実現をサポートすることにより、顧客課題の解決につなげてまいります。

<顧客のDX実現を支援するソリューション>

SaaS事業の拡大

クラウドの活用は、コストが低く導入スピードも速いため、DXの第一歩となります。サイオスグループでは、クラウドに対応する製品・サービスを拡大することで、業務改革のハードルを取り払い、顧客のDXを幅広く支援していきます。

ソフトウェア製品の提供

ソフトウェアの導入により、業務プロセスの改善や効率化を図ることができます。サイオスグループのソフトウェア製品によって、業務の効率化や利便性の向上を実現し、顧客のDXを支援していきます。

SIの提供

SIにより、レガシーシステムの刷新や、顧客のビジネスモデルに適したシステム開発を可能にします。サイオスグループでは、高い技術力を基に個別のニーズに最適な受託開発サービスを提供し、顧客のDXを支援していきます。

SaaS事業の拡大①

サイオス株式会社による「顧客のDX実現」の方針を基に、サイオステクノロジー株式会社では主に下記のSaaS製品サービスを展開し、顧客のDXを幅広く支援しています。

■ Gluegent Flow

申請から承認、決裁までの一連の業務をクラウド上で実行するワークフローシステム。シンプルな操作性で使いやすく、利用端末や場所を問わずに稟議業務を完結できます。

[詳細はこちら](#)

■ Gluegent Gate

複数のIDやパスワードを一元管理するIDaaS*。シングルサインオンや多要素認証により、セキュリティと利便性を同時に担保することで、ゼロトラスト*を実現できます。

[詳細はこちら](#)

■ Gluegent Apps

Google Workspace等の利便性を向上し、社内のコミュニケーションを支援するアプリケーション。アドレス帳や組織単位でのスケジュール表示等のサービスを提供します。

[詳細はこちら](#)

SaaS事業の拡大②

サイオス株式会社による「顧客のDX実現」の方針を基に、サイオステクノロジー株式会社では主に下記のSaaS製品サービスを展開し、顧客のDXを幅広く支援しています。

■ YourDesk

テレワークやフリーアドレスに対応した座席管理（ホテリング）および行動記録サービス。直感的なレイアウトで、座席の利用状況や社員の勤務場所を可視化します。

[詳細はこちら](#)

■ INDIGO NOTE

精神科病院のDXを支援するフルクラウドの電子カルテサービス。国内のガイドラインに準拠しつつ、医療情報の共有を視野に入れたグローバル標準規格を採用しています。

[詳細はこちら](#)

ソフトウェア製品の提供①

サイオス株式会社による「顧客のDX実現」の方針を基に、サイオステクノロジー株式会社では主に下記のソフトウェア製品・サービスを展開し、顧客のDXを支援しています。

■ LifeKeeper

システムの高可用性を実現するソフトウェア。ITシステムの障害が発生した際に、稼働系から待機系へ自動的に切り替えることで、ビジネス損失を最小限に抑えます。

[詳細はこちら](#)

■ Quickスキャン ■ Speedoc

MFP*のスキャンにかかる手間を削減することで、便利かつ快適にデジタル化できる文書管理ソフトウェア。スキャン後のデータ整理にかかる時間まで短縮できます。

[詳細はこちら](#)

■ Easyファクス

受信したファクスをデジタル化し、自動で振り分けるソフトウェア。リモートワークにおける「ファクスがあるから出社しないといけない」といったお悩みを解決できます。

[詳細はこちら](#)

ソフトウェア製品の提供②

サイオス株式会社による「顧客のDX実現」の方針を基に、サイオステクノロジー株式会社では主に下記のソフトウェア製品・サービスを展開し、顧客のDXを支援しています。

■ ALM3.0®

金融機関の経営戦略シミュレーションや予実分析を実行する経営支援ソリューション。ALM*やリスク管理、収益管理において、業務の高度化と運用負荷の軽減を実現します。

[詳細はこちら](#)

■ QUANTUM ■ e-Acris

金融機関の個人ローン審査における与信審査を自動化する統合与信ソリューション。商品特性に応じた細かな審査を実現し、スピードの向上と多面化・高度化を実現します。

[詳細はこちら](#)

■ レッドハット製品

クラウドネイティブアプリケーションプラットフォームや自動化製品、Linuxを販売、それに伴うパートナーの人材育成からサービス化の支援をおこなっています。

[詳細はこちら](#)

SIの提供

サイオス株式会社による「顧客のDX実現」の方針を基に、サイオステクノロジー株式会社では主に下記のSIサービスを展開し、顧客のDXを支援しています。

■ 統合認証ソリューション

大学を中心とした教育機関向けに多くの導入実績を持つ統合認証システム導入サービス。ID管理やシングルサインオンにより、セキュリティや利便性の向上を実現します。

[詳細はこちら](#)

■ システムソリューション

金融IT分野に強みを持ち、コンサルティングから実装まで一貫して請け負うサービス。システム刷新やクラウド活用等、ご要望に応じて多様なソリューションを提供します。

[詳細はこちら](#)

■ APIエコシステムデザインソリューション

APIエコノミー*領域におけるビジネスモデル検討からシステム構築、エコシステム拡張までワンストップで支援するサービス。APIを起点とするオープンイノベーションを通じたビジネスモデルへの変革を支援します。

[詳細はこちら](#)

サイオス株式会社の方針に基づき、サイオステクノロジー株式会社と協働で柔軟な働き方やペーパーレス、業務プロセス効率化を実現することで、サイオスグループのカルチャーを変革し、生産性の向上につなげてまいります。

<グループ内を変革するための施策>

リモートワーク導入による 柔軟な働き方の実現

国内拠点における全社員を対象に、リモートワークを基本としつつ、ライフスタイルやそれぞれの業務等に応じてオフィス勤務を選択できるハイブリッド型の勤務体制に移行しています。

書類等の電子化による ペーパーレスの実現

クラウドサービスの活用により、従来は紙媒体で保管していた各種書類を電子化することで、データの管理やアクセスを効率化しました。

※詳細はP.17をご参照ください。

デジタル技術活用による 業務効率化

コミュニケーションや定常業務にかかる時間を削減し、より重要度の高い業務に時間を割けるよう業務の効率化を図ります。

- コミュニケーションツールの活用
- 生成AIの活用検討
- バックオフィスにおけるRPA*ツールの導入

顧客のDX実現

● 各製品サービス毎の業績推移の管理

サイオス

サイオステクノロジー

事業単位よりも細かい、各製品サービス単位での業績データが随時確認できるよう各種ITツールを用いて管理。製品サービス毎に詳細な分析を行い、適時適切に販売戦略へ反映しています。

● データの活用による営業活動の効率化

サイオステクノロジー

営業支援や顧客管理のデータを活用する外部ツールを導入することで、見込み顧客の創出から成約までの一連のプロセスを効率化し、営業活動のパフォーマンスを向上。また、データをビジュアル化する外部ツールを活用し、各事業の業績データを直感的に分かりやすい形で分析しています。

内部基盤のDX推進

- 稟議申請から契約書管理までをデータ化することで効率的な管理を実現

サイオス

サイオステクノロジー

クラウド型ワークフローの「Gluegent Flow」を導入し、稟議申請から決済まで電子化することで、紙媒体の利用を大幅に削減しつつ、稟議業務にかかる工数の短縮を実現。また、決済後の契約書は、AIを活用し契約データを効率的に管理できる外部サービスを活用しています。

- 請求書作成および経費精算のデータ化により効率的な管理を実現

サイオス

サイオステクノロジー

請求書の作成および経費精算においても外部のクラウドサービスにより電子化することで、紙媒体の利用を大幅削減。スマートフォンで撮影、あるいは、スキャナでスキャンした請求書やレシート類を取り込むと、金額や日付は自動入力されるため、業務にかかる工数を短縮しています。

4. DX推進体制

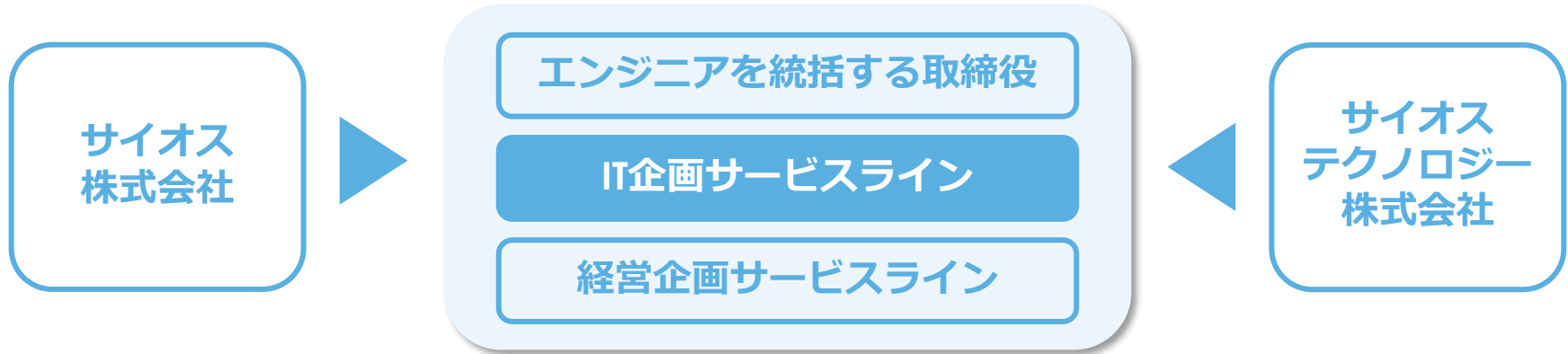


サイオスグループでは、顧客のDX実現を支援する事業を展開しています。毎月開催している合同執行役員会では、経営企画サービスラインを事務局として、サイオスグループの全役員が出席し、それぞれの事業状況や問題意識を共有するとともに、重要事項について議論を行っています。

また、グループ内の全部門においては、野心的な目標を達成するためにOKR*による目標管理を実践しており、製品・サービスを通じて顧客の課題をより多く解決できるよう取り組んでいます。

DX推進体制 - 内部基盤のDX推進 SIOS

会社間で分け隔てなく施策を実行できる体制



エンジニアを統括する取締役および経営企画サービスラインに加え、さらなるグループ内のDX実現に向け、新たにIT企画サービスラインを設立しました。それぞれが以下の役割を担うことで、サイオスグループの内部DXを推進しています。

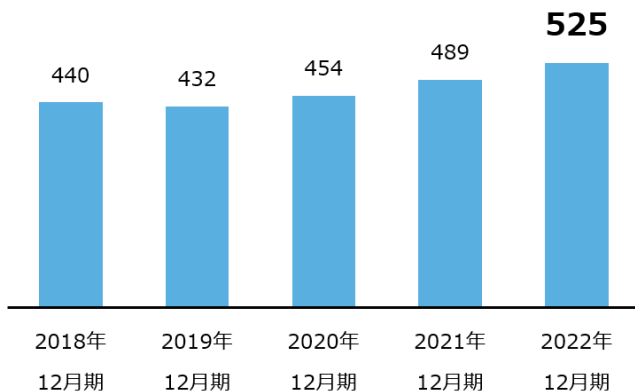
- **エンジニアを統括する取締役** : 技術的観点からの助言、エンジニアからの意見収集、最新技術の導入検討
- **IT企画サービスライン** : 最新技術の活用による業務効率化の促進
- **経営企画サービスライン** : DX戦略を管理する事務局

5. 人材の確保および育成

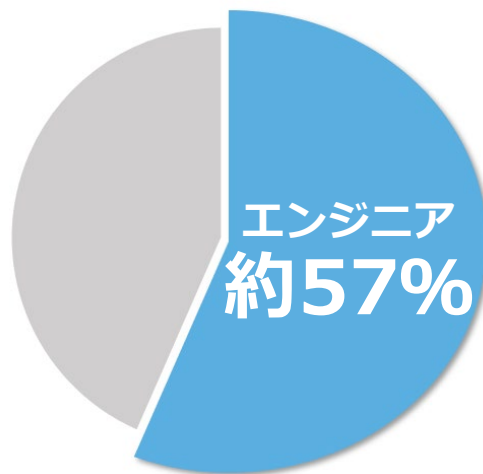
サイオスグループのDXビジョン実現に不可欠である、エンジニアを中心とした優秀な人材を確保すべく、新卒および中途採用に注力しています。積極的な採用活動の結果、2022年1月から2022年12月末の1年間でサイオスグループの従業員は36名増員しました。

<サイオスグループの人材情報>

従業員数の推移



職種比率



新卒社員の採用数

2023年4月入社実績

27名

変化の激しい時代に適応し、サイオスグループのDXを積極的に推進できる人材を育成するため、サイオス株式会社およびサイオステクノロジー株式会社ともに下記の施策を実行しています。

eラーニング による学習機会 の提供

全社員がeラーニングによるオンライン講座を受講することができます。エンジニアが自身のスキルアップに繋がられるだけでなく、管理部門をはじめとする比較的IT知識に馴染みのない社員でも、気軽に専門知識を学習できる環境を整えています。

5%ルール

就業時間の5%の時間は、自己啓発ほか、日常従事している業務以外のために時間を費やせる制度を設けています。アプリ開発の企画を立ち上げる、自己学習に充てるなど、社員により様々な活用をしています。

新卒社員研修 における IT知識の学習

新卒社員の研修時に、外部から講師を招いて、非エンジニアに向けたIT基礎知識の講座を設けています。また、受講後はITパスポートの取得を推奨しています。

6. DXへの投資強化および デジタル活用環境の整備

顧客のDX実現におけるSaaS事業への投資強化

サイオスグループの「顧客のDX実現」を推進するため、サイオス株式会社の方針に基づき、顧客のDX推進に資する領域への投資を継続しています。また、近年、社会におけるDXの必要性が高まっていることを受け、より幅広い顧客層のDX実現を支援できるよう、低コストかつ導入スピードの速いクラウド関連の製品サービスへの投資を優先する方針としています。

上記の方針に基づき、サイオステクノロジー株式会社では、特にSaaS事業を中心に下記の取り組みに注力しています。

製品開発の強化

ユーザーのニーズに適した製品機能の追加や、ユーザビリティの改善に注力するため、研究開発に注力しています。

マーケティングの強化

製品サービスの認知度向上や、見込み顧客数を拡大するため、広告宣伝費等を積み増し、デジタルマーケティングを展開しています。また、販売パートナーとの連携強化にも注力しています。

リモートワークを主体とする勤務体制の構築

サイオスグループでは、勤務場所および居住地を自由化することで、出社にとらわれず勤務地を選択できる制度を導入しています。また、フレックスタイム制も活用しており、それぞれの勤務スタイルに合わせた柔軟な働き方を支援しています。この勤務体制を構築するために、サイオス株式会社およびサイオステクノロジー株式会社では、下記の施策に取り組んでいます。

社内セキュリティの整備

● VPN利用

オフィス外からも必要なデータにアクセス可能。

● セキュリティと利便性を担保したID管理

クラウドサービス「Gluegent Gate」によって、シングルサインオンと多要素認証を実現し、IDやパスワードを一元管理。

● サイバーセキュリティ推進体制の構築

情報セキュリティ戦略を統括するCISOの配下にCSIRTを設置し、効果的なサイバーセキュリティ対策を実施できる体制を確立。

※詳細はP.32をご参照ください。

最適なITツールの選定

● 書類等のペーパーレス化

クラウド型ワークフローの「Glugent Flow」をはじめとするクラウドサービスの活用により、契約書や請求書等の申請から管理までを電子化。ペーパーレス化を実現することで、書類対応のための出社回数を削減。

● フリーアドレス化

オフィスの全フロアをフリーアドレス化。クラウド型座席管理システムの「YourDesk」を活用し、出社時のコミュニケーション活性化を促進。

7. DXの進捗を測る指標

顧客のDX実現

サイオスグループでは、製品サービスの提供を通して「顧客のDX実現」を支援しており、その進捗を測るための指標として、**連結売上高**を重視しています。

内部基盤のDX推進

自社内の働き方や業務プロセスの変革は、業務効率化を通して従業員の残業を減らし、いつでも有給休暇を取得できる環境を実現することにつながります。そのため、「内部基盤のDX推進」の進捗を測る指標として、**残業時間および有給取得状況**の進捗を重視しています。

DX人材の育成

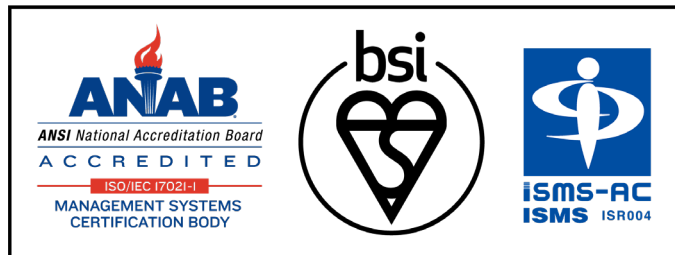
変化の激しい時代に適応でき、サイオスグループのDXを積極的に推進できる人材を育成するために、従業員に自己学習の機会を提供しています。**eラーニング利用率**の進捗を測り、従業員の自己学習を促進する施策を講じることで、人材の育成に努めています。

8. サイバーセキュリティ

認証の取得

サイオス株式会社およびサイオステクノロジー株式会社は、情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格である「ISO/IEC 27001」（ISMS）認証を取得しています。また、個人情報保護マネジメントシステムの日本産業規格である「JIS Q 15001」認証もあわせて取得しております。

サイオス株式会社およびサイオステクノロジー株式会社ともに、上記マネジメントシステムの有効性や適合性について、内部監査および外部審査を年1回定期的に実施しています。



IS 602459 / ISO 27001



PIMS 679189 / JIS Q 15001

情報セキュリティ基本方針

サイオス株式会社およびサイオステクノロジー株式会社は、情報セキュリティの重要性を十分に認識し、法令等の要求事項の遵守および情報資産の適切な保護を目的に、下記の基本方針を定めています。（詳細は[こちら](#)）

<方針の概要>

1. 情報セキュリティの重要性について
2. 情報セキュリティマネジメントシステムの定期的な見直しについて
3. 情報資産のリスクアセスメントおよびセキュリティ対策について
4. 情報セキュリティインシデント発生時の対応について
5. 情報セキュリティの責任および情報セキュリティマネジメントの推進について
6. 本ポリシーの遵守について

サイバーセキュリティへの推進体制

サイオス株式会社およびサイオステクノロジー株式会社は、サイバーセキュリティリスクが自社のリスクマネジメントにおける重要課題であることを認識し、以下、サイバーセキュリティへの推進体制を構築しました。（詳細は[こちら](#)）

<推進体制の概要>

1. CISO（Chief Information Security Officer）について
2. CSIRT（Computer Security Incident Response Team）の設置について
3. 情報セキュリティレベル向上への貢献について
4. 情報セキュリティに関わる高度な知見を有する人材の確保と継続的な教育について
5. 定期的な点検とCISOによる監査の報告について

頁	用語	説明
4	SI	システムインテグレーション（System Integration）の略。システムの要件定義や設計、開発、運用などを行うサービス。
4	SaaS	Software as a Serviceの略。ソフトウェアをクラウドサービスとして提供すること。
10	IDaaS	Identity as a Serviceの略。複数のサービスのIDやパスワードをクラウド上で一元的に管理するソリューション。
10	ゼロトラスト	社内外のネットワーク環境における、従来の「境界」の概念を捨て去り、守るべき情報資産にアクセスするものはすべて信用せずにその安全性を検証することで、情報資産への脅威を防ぐという、セキュリティの新しい考え方。
12	MFP	プリンタ、スキャナー、コピー、FAX等複数の機能を搭載した機器をMFP（Multifunction Peripheralの略）という。
13	ALM	金融機関の資産（Asset）と負債（Liability）を総合管理（Manegement）するシステム。
14	APIエコノミー	ソフトウェアやアプリケーション同士が互いに情報をやり取りする仕組みであるAPIの活用によって生み出される経済圏のこと。
15	RPA	ロボティックプロセスオートメーション（Robotic Process Automation）の略。これまで人間が行ってきた定型的なPC業務を自動化する仕組みのこと。
19	OKR	Objectives and Key Resultsの略称。Objectives（目標）とKey Results（主要な成果）を設定し、短期的な見直しを行いながら進捗を管理することで、高い目標を成し遂げようとする目標管理のフレームワーク。

